



あさひ18号

2020年(令和2年)

1月24日発行

福山市立旭小学校長

池田 恭子

グライダーと飛行機

前回の井上貞女先生の研修で、「学校はグライダー人間をつくるのではなく、飛行機人間をつくる必要がある。」という話がありました。どこが違うのでしょうか？

グライダーは飛行機と同じように飛びますが、エンジンをもたないため自力で飛ぶことはできません。受動的に知識を得るのがグライダー能力、自分で物事を発見、発明するのが飛行機能力と、外山滋比古著「思考の整理学」にあります。(別紙参照)

飛行機能力＝主体的な学び

子どもの姿

自己エンジンをもち、授業に対して目を輝かせている。

自分の思いを思わず口に出してつぶやいている。

友だちの発言に子どもたちが反応している。

新しい知識や情報を自分からつかみに行っている。

もっとやってみたくなり、次の課題を見つけている。

「なぜ」を追究している。



そのために

「おもしろい」授業をつくる

つかみは大事だが、導入で気を引く等の小手先のことではなく、授業の本質のおもしろさを追究する。

